

委員會が確立されないうちに、断然、ストライキを敢行しなければならぬやうな場合が非常に多い。さうした場合には、無論ストライキを通じて、戦闘的工場委員會を樹立する方針が取られなければならない。

(ス)ストライキの場合には、各職場から選出された代表者によつてスト委員會が結成される。(一)経済闘争に關する方針参照)ところが、このスト委員會は、カンパニア組織であるから、争議終了後は、解散される。だから、もし戦闘的工場委員會が出来てゐなければ、折角争議によつて戦

ひ取つた成果を確保することが出来ない。我々は、この點を一般大衆に充分アジプロシ、争議の要求條項の中へ、『自主的工場委員會による團體交渉権の本質的一項を必ず受け加へ、争議終了後は、直ちに、民主的中央集権制の基礎の上にたつた戦闘的工場委員會を、樹立するやうに、指導すべきである。』このためには、平生から戦闘的工場委員會に對するアジ、プロが、充分行はれてゐなければならぬ。

(ル)かくして、ストライキを通じて、戦闘的工場委員會が樹立されたならば、従來の共済組合、親睦會、等は即ち解散

し、共済、親睦、等の事業は、戦闘的自主的工場委員會の事業の一部として遂行するやうにする。協調的工場委員會は當然消滅する。

(ヲ)總同盟あたりのグラ幹共が、團體交渉権を悪用して、自分達の組織を維持してゐることは周知の事實だ。どんな自主的な組織が出来ても、それがグラ幹によつて指導される場合は、かへつて、有害物に轉化する。だから我々は、すべての活動場面に於て、グラ幹を粉碎することに極力努力しなければならぬのだ。

#### H 戦闘的工場委員會の確立と分會の擴大強化との相互聯關

(イ)戦闘的工場委員會の確立が、絶対に必要だといふことは、『戦闘的工場委員會さへ確立すれば、分會の組織は擴大強化なくとも』といふことでは、無論ない。要は、『戦闘的工場委員會を確立することなしに、分會の組織を擴大強化することは不可能であると同時に、眞に戦闘的な、強力な分會の指導なしに、工場委員會を戦闘化することは出来ない』といふ點にあるのだ。

(ロ)資本主義の向上時代ならば問題は簡單だ。その時代には、労働組合の必要を強調し、『労働組合へ入れ』といふアジ、プロを行へば、比較的容易に大衆を組織化することが出来た。ところが、現在のやうに、あらゆる工場に於ける資本家の闘争組織——監督網、スパイ網、警察との聯絡等々——が完備し、しかも、資本家の御用をつとめてゐる社會民主主義者共が、縦横にその組織を張りめぐらしてゐる際に、左翼労働組合が、いきなり『労働組合へ入れ』といふ呼びかけをしたところで、容易に大衆を組織化し得ないことは、判りきつたことだ。

(ハ)で我々は、さきにも述べた通り、一應分會が出来たら、先づ大衆を自主的工場委員會へ組織し、その組織を通じて、あらゆる政治的経済的闘争を敢行し、その過程に於て、分會の擴大強化を計らうといふのである。かつては、世界いづれの國に於ても、プロレタリアートの基本的組織は、『黨——組合』といふ具合に、規定されてゐたのであるが、今ではそれは、『黨——組合——工場委員會』といふ風に規定されるやうになつたのである。

(ニ)これは、かつて我々が、京濱地方の某工場の組織に取

りかゝつた時の経験であるが、その時には、分會は組織されたが折角分會へ組織された従業員の跡をスパイ共が追ひ廻し——彼奴は労働者の自宅を盛んに訪問して、いやがらせをやるのだ——それと同時に、會社が猛烈な警戒を始めたので、我々は容易に組織を擴大することが出来なかつた。さうした際には、一般大衆に向つて、『××組合へ入れ』といふことを煽動するのを中止し、運動のホコ先きを、工場委員會の結成に向けるべきであつたのである。さうすれば、運動を大衆化し、その中から強力な分會を組織することが出来たと思ふ(その當時は、まだ、工場委員會運動に關する方針が、今ほどハッキリしてゐなかつたので我々は一應失敗した)

(ホ)右に述べたやうな場合に出くわすことは、今後、非常に多いに相違ない。我々は、先づ四人でも五人でもの同聲を獲得して、分會(もしくはその準備會)を作ることが出来たら、その分會のメンバーを、分會員として、表面に出すことをさけるやうにして——分會の發會式を公然とやるやうなことをしないで——分會のメンバーをして、猛烈なる、工場座談會運動を展開せしめ、分會の擴大は、極めて周到な注